

## 2021.10.7 富山県成長戦略ビジョンセッション（立山町）での発言要旨

### 【知事からの説明】

新田知事より 資料（別添）により富山県成長戦略会議「中間とりまとめ」について説明

### 【グループ発表（①～④グループ）】

①私たちは、幸せ人口1,000万人を中心とした人口に関する意見で集まったグループです。18個案が出たんですけれども、一番の中心は、人口が増えるという部分で、住のほう、住むというところに結構意見が集まったんですけど、古民家ですとか空き家問題というのいろいろあります。立山町も多いので、それを活用して、

- ・1週間取りあえず住めますというキャンペーンをしましょうと。

もう県外の人でも誰でもいいので来いと。住めという感じで、それで気に入ったら、それをシェアハウスとして提供するという案がメインになります。もしそれで気に入らなかったら、はじめしゃちょーに解体してもらおうですとか、ちょっとおしゃれなやつだったら佐藤健に来てもらって体験してもらおうという意見も出ましたし、あとは電力ですとか、そういう形でつながったりかしているんですけれども。

あとは、2つ意見があったのでちょっと爆弾発言しますけど、

- ・地鉄の運賃を3分の1にして本数を増やす。

やっぱり来る人たちが運賃が高いと来る気にならないというのがありますから、こういうところも大事になるんじゃないかなと思うので、私たちはこういう意見となりました。

以上です。

知事：ありがとうございます。お話し居住というのは十分ありだと思います。まずは住んでもらう。そして、気に入られたら、ずっとなのか、あるいは年のうち3分の1なのか住んでいただく。これも幸せ人口を増やす上ではとても有力なやり方だと思います。

地鉄さん。うーん、これはノーコメント。富山から幾らなんですか。私、乗ったことがないんですけど。

これから高齢化も進んでいく中で、みんなが運転できるわけじゃなくなる。そうすると、公共交通をどうやって維持していくかというのは、富山県としてもとても真剣に考えていることです。以上です。

②私どもの班は人材育成をキーワードにしました。やはり学びの場、ここをとにかくいいものをつくっていくということで、

- ・目標がウェルビーイングスクール

文字どおりなんですけれども、中身としましては、ネバーエンディングスクール、生まれたときから墓場まで、子供も大人もいつでも学んでいこうと。ウェルビーイングを目標にして学びましょうと。そういう場をぜひつくっていただければなと思っています。

それから、

- ・エブリバディティーチャーズ

これは誰もが先生です。生徒が先生を教えたっていいんです。赤ちゃんが親を教えていいんです。もっと言えば、いろんな人材を持っている方が、いつでも、どこでもお教えしようといった場があればいいかなと思っています。

こういった大きな目的と指針があった中で、具体的にキャリアアッププログラム。これは、人材交流でありましたり、いろんな知恵なり知識なりを持っている方の交流の場というスクールもありますので、こういったところはぜひ県庁さんの御支援を賜ればいいのかも思ったりしています。

それから、立山いいところ発見なんですけれども、「立山のいいところってどこ？」と質問された町民の方が、「うーん」と言っちゃどうしようもありませんので、立山のここがいいん

だけ、こういうところがいいというところをどんどん学びながら、体験しながら勝ち得ていく。こういった方向を目指したらどうかなと思います。

これは、先ほどの話にありました

- ・インタースクールインターンシップ。

それから、こういった学びの場を通して人材育成してウェルビーイングを目指したいと思います。

以上でございます。よろしくお願いします。

知事：数少ない女性の3人がここに集まっているというのはすごいことだなと思いますが、いずれも興味深いと思いますが、ネバーエンディングスクール、これが特に私は興味を持ちました。

実は昨日も富山大学の齋藤滋学長とお話をしておりましたが、私の世代の頃は、20年学んで、40年働いて、あとは残りの人生みたいなことだったんですが、今は人生100年時代、もうずっと働き、またずっと学びという時代です。リカレント教育とも言うし、また、産業もどんどん変わっていくので、20年学んでそれずっと働けた時代ではなくて、学び直さなきゃならない。リスキリング、そんなことも求められます。ですから、このネバーエンディングスクールというのは、世の中が今、人生100年時代の日本、富山県、立山町にとって求められる施設だと思います。

③僕たちのグループは、まちづくりや人流の活性化ということで、コンセプトとしては

- ・環境先進県を目指していこう

ということで、まず、立山町が他県の人や海外の人にとってのふるさとをつくっていきいたいという話が出ました。

その中では、農村留学に行くだとか、公園に関しても立山町の自然のコンセプトという下で、前田社長みたいな、野沢公園と食と、やっぱり家族で食事とか遊ぶ場所というところも、もっともっとつくっていけるといいんじゃないかという話も出てきました。

- ・また、立山連峰がある中で、眺めのいいオフィスづくりというところ。

・あとは環境ということで、木をたくさん利用したところもつけていったらいいんじゃないかなということが出てきました。

あとは、まきストーブや、立山町ということで、林業とかそっち系の環境というところにも配慮して、そこもできたらいいんじゃないかという話もたくさん出てきました。

コンセプトとしては、特に環境を先進していくということが立山町にとっての、また、人が興味を持ってもらえるようなまちづくりというところでできればいいかなという話をしました。

すみません、なかなかまとめ切れませんでした。以上です。ありがとうございました。

知事：本当に立山町のおよさをフィーチャーしたいろんなアイデアが出ていると思います。

私はよく全国知事会の際に、ぜひ岸田総理の下で、東京一局集中をどんどん変えて地方にと言っていますが、地方でも富山市はやっぱり密なんですよ。富山県のコロナの感染者、これまで4,800人余りおられますが、そのうち半分は富山市なんですよ。だから、立山町のような、さっきも言った過疎じゃない開疎、風通しもよく、換気もよくできていて、そして出入りが自由な環境、これはやっぱり貴重だと思います。とって、富山市のような都市は都市で富山県にとっても必要なもので、都市と田園の立山町がうまくコラボレーションして富山県全体を上げていく、そして富山県民のウェルビーイングを上げていく。大きな可能性があると思いました。そんなアイデア満載で、とてもうれしくお聞きをしました。ありがとうございます。

④僕たちのチームは、地域と人に関係することについて話し合いました。

まず1個目なんですけど、

- ・町民のフリースペースをつくる

ということで、学習スペースに限らず、アートに触れる場所とか、いろんな人がいていいと思うんですけど、そういうところで住民の交流を促すことができるかなと思ってフリースペースをつくりたいと思っています。

次なんですけど、

・立山ウーバー

と書いていまして、何だという話なんですけど、官民一緒に人の移動、モビリティをできないかという話で、先ほど地鉄の話もありましたけど、富山県、立山町は車社会です。高齢者も免許を返さないといけません。そんな中で何ができるかというので、貨客混載でもないですけど、郵便局の車と一緒に人が乗っていったらどうかとか、マッチングアプリで、一緒の方向へ行く車と一緒にいったらどうかとか、取りあえずモビリティを町でやってみるのはどうかという案です。

最後に3つ目なんですけど、

・ぶっ飛んだ人を誘致、ウェルカムと書いてあります。

よくTEDで有名な社会運動を起こすにはというのがあると思うんですけど、このぶっ飛んだ人を誘致して全力でフォローしていくというのが面白い発展が生まれるんじゃないかなと思っているので。ぶっ飛んだ人をどうやって連れてくるのか、すごい悩んでいたんですけど、あまりいいアイデアが浮かばなかったの、ここは前田社長とかに連れてきていただくのが一番いいのかなと思っています。

以上です。

知事：ありがとうございます。ぶっ飛んだ人代表の前田大介さんがおられます。

やっぱり人が面白いというのは、人にはまた人がつながるんですね。そして、また人につながっていきます。ですから、ヘルジアン・ウッドに行きたい、泊まりたい、あるいは食べたいということで、ぶっ飛んだ人がどんどん来ています。そして、そこで感動した人がまたどんどん連れてくる。そんな連鎖をどんどんつくっていきましょう。そしたら、もっともっとぶっ飛んだ立山になると思います。

それと、さっきも言った過疎じゃない開疎の立山町。やっぱりモビリティというのがとてもポイントになります。どうやって人は移動するのか。そして、高齢化もしていくので、そこにおいて立山丸々、固有名詞ですからあれですけども、ウーバー、欲しいですよ。

この発想は、実は今、もっと開疎な朝日町で既に実践中です。「ノッカルあさひまち」という、スズキさんが車を提供して、博報堂がソフトを出して実験的に始まっています。そんなことをぜひ立山町でも考える。でも、商業ベースにぎりぎりのところなので、これは住民の皆さんも共に取り組むことによって、自分たちだっぴいつか車を運転できなくなる、そんなときのためにこんなモビリティをしっかりと確保する、そんな仕組みづくりを今始めたらいいいと思います。ありがとうございました。

【振り返り】

前田社長とは日頃いろいろお話もさせていただくことがあるんですけど、僕、今日集まりがあると聞いて応募させていただいたんですけど、「立山町に住んでいる人」というくくりになったときに、どれぐらいの方がここに参加されるんだろうというのに実は一番興味を持っていました。日がちょっとずれたというのがあったんですけど、応募がすごく多くて、日がずれてもなお参加する人がたくさんいるという、それ自身にすごく感動しました。もちろん、すばらしい議論がたくさん出たんですけど。こういうところに人が集まるということ自体が今まであまりなかったんじゃないかなと。僕もそんな歴史は深くないですけど、そういうふうにして今日参加させていただきました。ありがとうございます。

今回参加して一番新しく学んだかなと思うことは、大学の必要な書類とかでも結構自分の思いが先行してしまっ、1つのことに集中してしまうことが多いんですけど、グループワークのときにいろんなアイデアが出て、それを複合してまた新しいアイデアをつくるということが

すごい新鮮で、新しい感じというか、語彙力がなくて申し訳ないんですけど、カルチャーショックというか、新しい感覚を得たなと思いました。

学校で総合探究という授業があるんですけど、そこでは、クラスの人たちが結構多種多様で面白いアイデアをプレゼンしたりとかするんですけど、でも、そういう人たちはこういう場に参加しようとはあまりしなくて、僕がLINEで何かないかと投げかけをしても、ちょっと難しいから分からないとか、何か一歩引いたところで考えているのかなとまだ思うので、そういったところを行政の方とか、またいろんな地域の大人の人たちが介抱というか手助けしていただいて、子供というか高校生、中学生の社会進出がもっと簡単にいうか、もっとアクティブになれるようにしていただけたらいいなと思いました。

先ほどの方が言われたとおり、立山町でこれをしてどれだけの人が集まるんだろうかというのが最初の疑問でした。それで、ぜひともここに参加したいと。というのも、町長がおられる前で話しづらいんですが、町長がいつも大学生を呼んでコンベンションをしていらっしゃるんです。でも、私は、ここの地域の問題は立山町民がもっと考えなきゃいけないんじゃないかというも思っていたので、これだけたくさんの方が立山町について考える場ができたことがすごくよかったと思います。

私も先ほどの感想とかぶってしまうところがあるんですけど、ウェルビーイングという話があって、会社の働き方でも、よりいい働き方ができないかなという事は常々考えていました。ただ、それを実現していくときに、本当にできるのかと思っていたときにちょうどこの話があって、一番初めに新田知事と話をしたときも、どう実現するのかというところで雑談させてもらったんですけど、実際たくさんの方が集まって、これだけパワーのある人たちがいるんだということを知れたことが私にとってはすごくよかったことです。これから何かあったときに、こういった集まりのメンバーの出会いを大切に、そういった人たちの力も借りながら前に進めていけるんだなということを知れたことがとても良かったです。今日はありがとうございます。

先ほどの方もおっしゃっていたんですけど、私、ここに来て一番最初に気づいたのは、何て自分の視野狭いんだと思って、紙の中に案がたくさん埋め尽くされていくのを見る中で、人と関わることで人の意見とかを聞くというのはすごく大事なんだなと本当に痛感しました。人の出入りの活性化というところもあるんですけど、自分の意見を発信して、またこういう場に飛び込んでみんなの意見を聞いて、またそれを持ち帰ってほかの人に伝えるということができていくと、町の活性化につながるんだろうなとすごく実感しました。

また、私、娘がソフトテニスをやっている立山総合公園によく来ているんですけど、実はこのヘルジアン・ウッドを知らなくて、すぐそこまで来ていたのに、こんないい場所があったんだと思っております。

前田委員：皆さん、ありがとうございました。

まずもって、新田知事の考え方、ウェルビーイング、もう既にこの空間は完全にウェルビーイングが成立していると思っています。さすがこけら落とし、15市町村のビジョンセッションの1番目に知事が選んだだけあるなというぐらいの熱量と、ウェルビーイングの幸福度が高い皆さんが集まっていたことにまずびっくりしました。

と同時に、僕が今回反省したこと、今回こういうセッションをしていただいて気づいたことは、これだけの熱量がおありの皆さんがいらっしゃるの、こういう会ってこの1回に限らず、ヘルジアン・ウッドその他、皆さんいろんな場所をお持ちですから、今日集まった仲間と何かしら連絡を取り合う手段をつくってこの輪を広げられたらいいなと思いました。

今日は勉強になることばかりで、本当にありがとうございました。

今日この会に参加して、たくさんの方が真剣に立山町とか富山県のことを考えているんだな

と感じましたし、僕自身、まだまだ話し足りないことがあって、自分でも思った以上に、ああ、地元のことを考えているんだなとはっきり今分かったので、そんな人たちがもっと増えていただければなど。実現可能か不可能かは別なんですけれども、1人の意見がみんなが集まってどんどん実現して、それでよくなっていけばそれが一番いいと思っておりますので、知事にはまた御尽力いただければと思います。よろしく願いいたします。

この場を用意してくださって本当にありがとうございます。これ、月1回はちょっと無理でも、舟橋町長、ぜひ半年に1回これをつくってください。

あと、先ほど前田さんがおっしゃっていたみたいに、グループとかつくりませんか。よろしく願いいたします。

この会に参加して、幸せっていろんな形があるんだなと思って、ある人にとっては電車の運賃が安くなったりとか、関係人口、県外の人にとっては、立山町の観光資源が魅力的であればその人にとっては幸せだしという、いろんな幸せの形があるので、すごい定義づけが難しいなと思って、具体的には決まっていなくてもいいんですけど、立山町にとってとか富山県にとって、先ほど言われた政策の到達点というか、何をしたら幸せになったと言えるのか、今の時点で何か考えというか、どうやって判断しようと思っているのか、考えがあったらお聞かせ願ってもいいですか。

知事：いい質問ですね。それがまさにこのウェルビーイングを上げていく上でとても大切なことなんです。何をKPI、指標にして、このウェルビーイングが上がった、下がったを測るかということ、これはまだチャレンジです。さっきも幾つか例示はしましたが、もっといろんな観点があると思います。ぜひまた提案してください。これがウェルビーイングだぜの指標でいいんじゃないかということをお願いします。共にこれはチャレンジングなことですが、まだ多分、世界中誰もできていないことです。やってみましょう。

1つ、私はこの前、とても頭をががつんとされたことがあって、東京パラリンピック競技大会のポッチャ競技でリオに続いてメダリストになられた藤井友里子さんとZoomでお話をすることができました。あちらも忙しいので、10分ぐらいですけども。10分間の中に、藤井百合子さんは、私は幸せ者です、私は幸せ者です、私ほど幸せ者はいないと五、六回言われたんですよ。自分は幸せ者だって言っていますか。思っていますか。

でもね、やっぱり私、このウェルビーイングって、まさにそのことで、自分は幸せ者であるとみんなが思っている、そんな立山町に、富山県に、日本にしていきたいと思います。

私はさっき、身体的に、経済的に、社会的に、精神的にいい状態をウェルビーイングという定義を1つ言いましたけれども、藤井友里子さんはパラリンピアンですから、身体的には決して十分な状況じゃない。でも、私は幸せ者ですと10分間に5回も6回も言われた。それ以来、私はこのウェルビーイングについて本当にずっと考えていて、分かりかけたような、分からなくなったような、そんなところです。

これからもどうやったら県民が幸せな生活を送れるのか考えていきたいなと思いました。ありがとうございます。

コロナ禍で、職場が病院とか施設だったので、なかなかこんな多様な人たちと会うことがなくて、ただただ楽しかったです。ディスカッションして、いろんな人の楽しい意見を聞いて、こういう楽しい場がどんどん立山町だけじゃなくて富山県中にできて、やっぱり富山県が好きだ、立山町が好きだとみんな感じてもらえば、それで僕はもう十分幸せかなと思いますし、本当に楽しかったです。元気になりました。

皆さん、また元気で富山県を盛り上げていけたらと思います。ありがとうございました。

【中尾座長閉会挨拶】

皆さん、本当にありがとうございました。

私は、立山町で1番にやったのが本当によかったと思います。富山と言ったら立山ですから、ここを1番にしなければ。私も年ですから、何十年こういう県の総合計画に関わってきましたが、発表や説明で楽しかったという、こんなのは初めてですよ。(これまでは)みんな早く終わればいいなど、ずっとそう思ってきました。今日は楽しかった。

皆さんからいただいた考え、御意見を戦略会議の中にもまた生かしていけばいいんじゃないかと思っております。

皆さんのお話にありましたように、これをこの仲間だけでやろうというんじゃなくて、お帰りになったら、自分の仲間たちと、家族とどんどん話し合っ、話合いをもっと進展させて、それが地域の明るい発展になっていくんじゃないかと思います。

1番にやられたことに誇りを持って、すばらしい立山町になっていくように祈念をいたしたいと思います。

今日はどうもありがとうございました。